

世界が進むチカラになる。



経済調査

欧州景気概況(2026年6月)

2026年6月2日

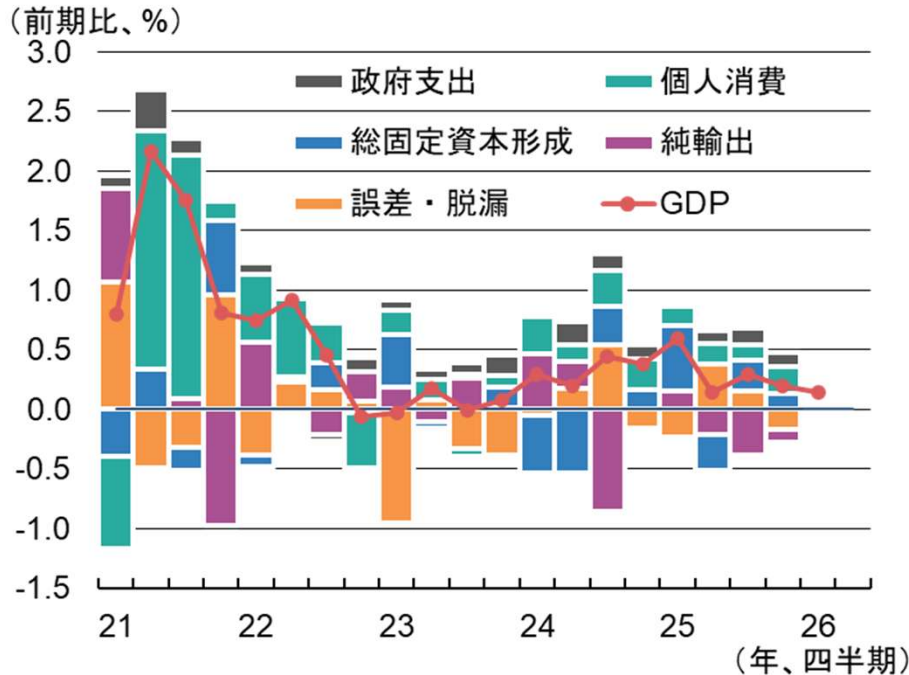
調査部 主任研究員

土田 陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は減速している

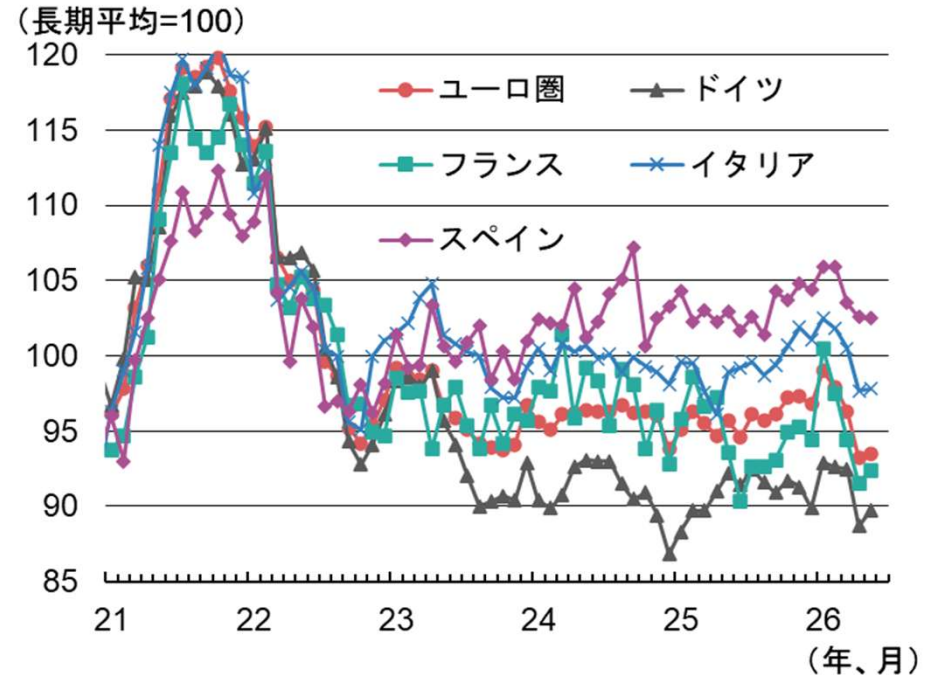
ユーロ圏の1-3月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.1%と、2四半期連続で増勢が鈍化した。主要国別には、ドイツが同+0.3%と前期(同+0.2%)から成長率が拡大した反面、フランスが同横ばいと2四半期連続で成長率が低下した。一方、最新5月の景況感指数は93.5と上昇に転じたが、力強さを欠いている。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

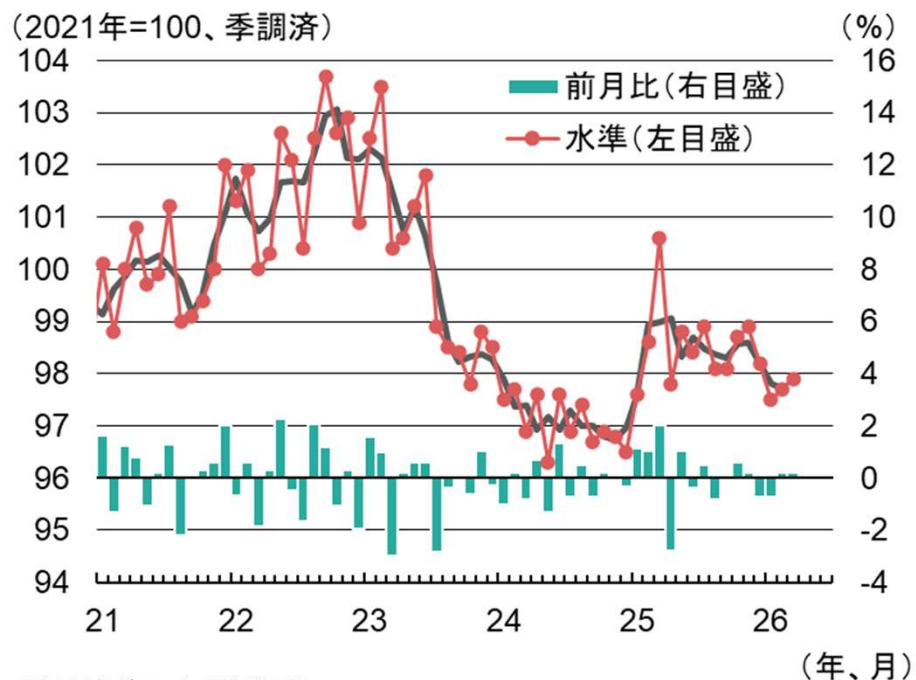


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は低迷している

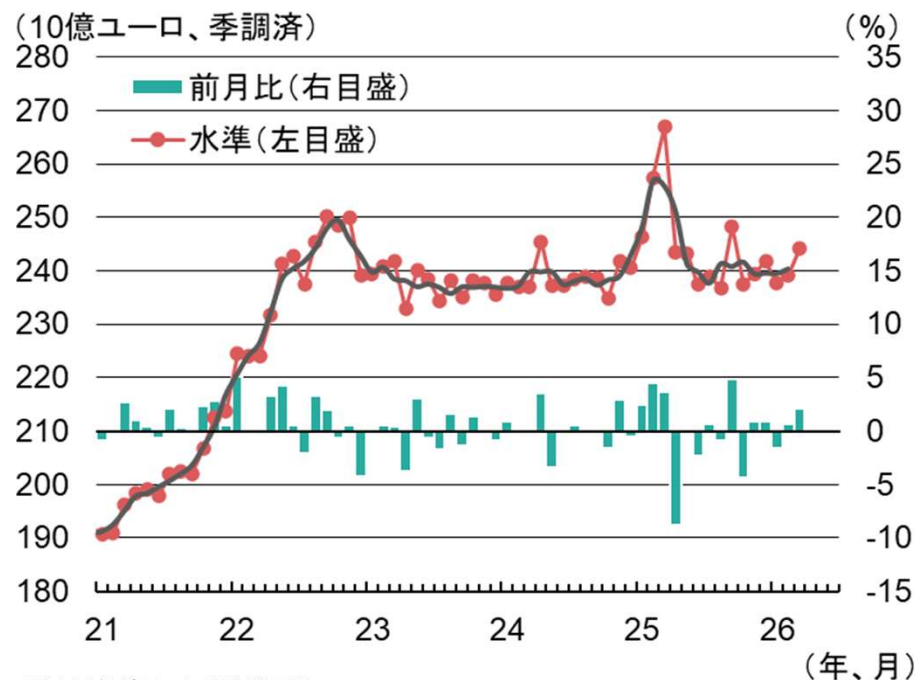
ユーロ圏の3月の鉱工業生産は前月比+0.2%と2カ月連続で増加した。中間財や資本財の増産が続いたが、生産全体の動きは均すと下向きのまま。一方、同月の名目輸出は同+2.1%と前月(同+0.6%)から増勢が加速したが、均した動きは横ばい。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

名目輸出

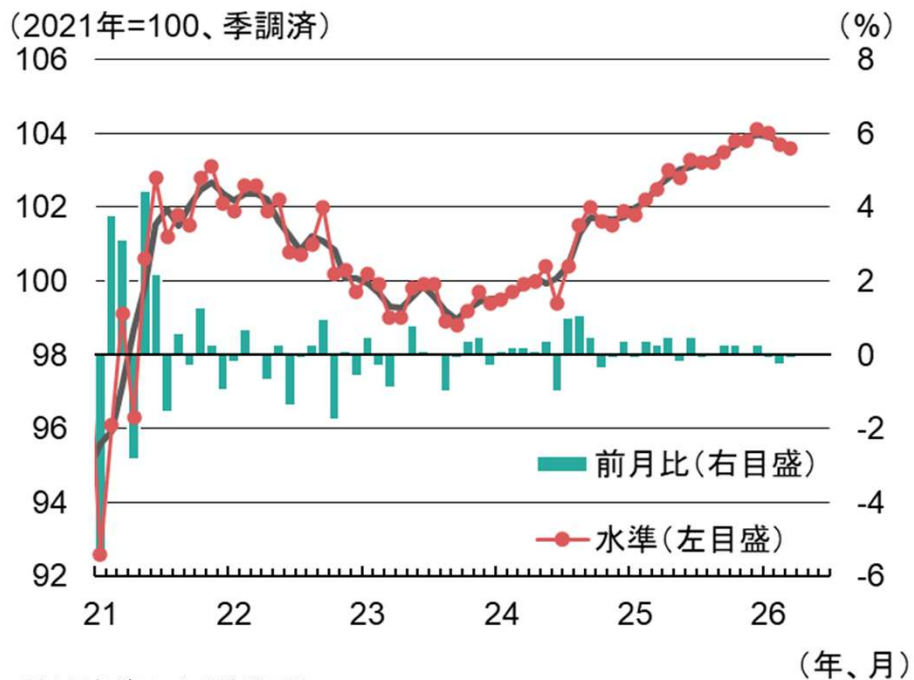


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は頭打ち

ユーロ圏の3月の小売数量は前月比▲0.1%と3カ月連続で減少し、均した動きも下向き。一方、4月の新車販売台数は前月比▲0.2%の年率952万台と再び減少したが、均した水準は横ばい。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

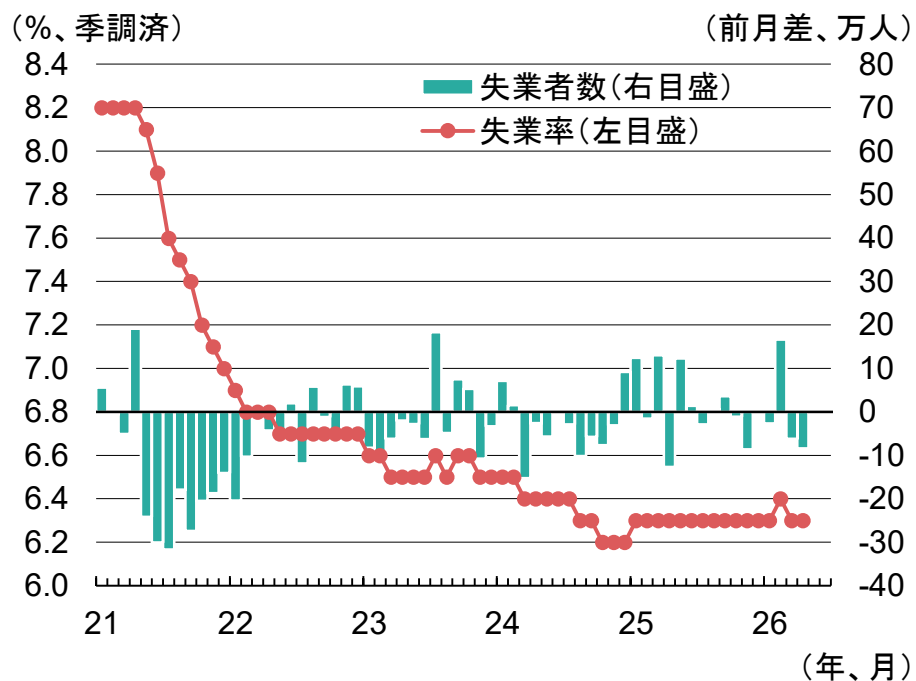


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は完全雇用の状態である

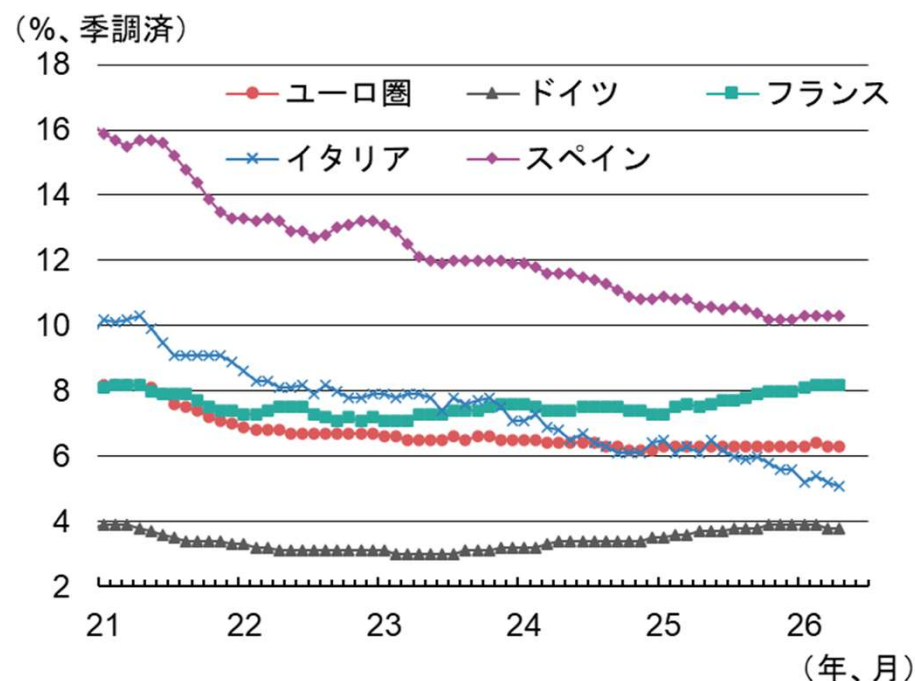
ユーロ圏の4月の雇用統計では、失業率が6.2%と前月と同水準となった一方、失業者数は前月差8.4万人減と2カ月連続で減少した。失業率・失業者数とも一進一退が続いており、完全雇用の状態と判断される。失業率を主要国別に確認すると、いずれの国も年明け以降は横ばいで推移している。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

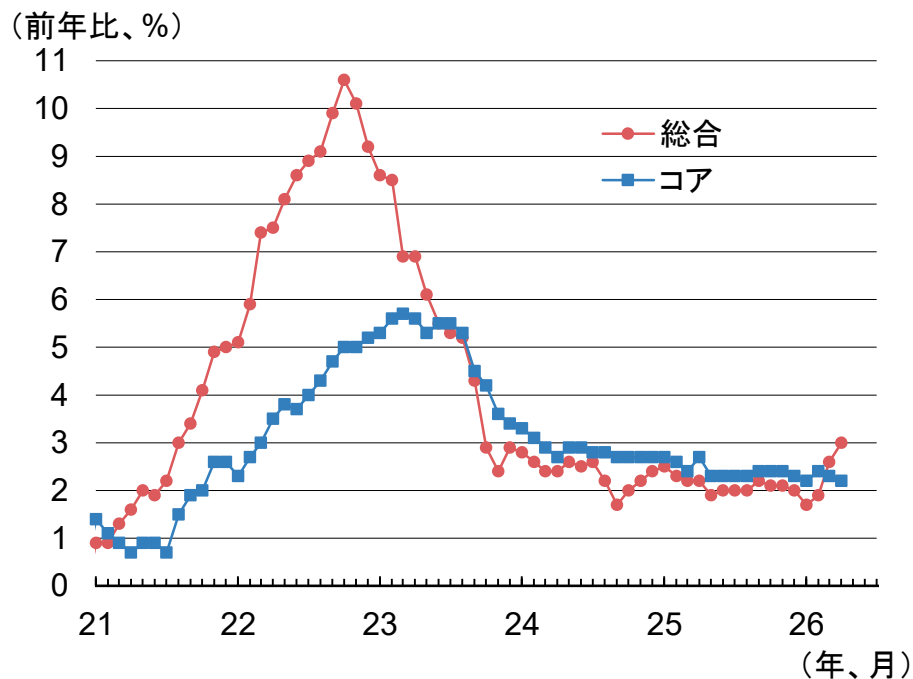


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレが加速している

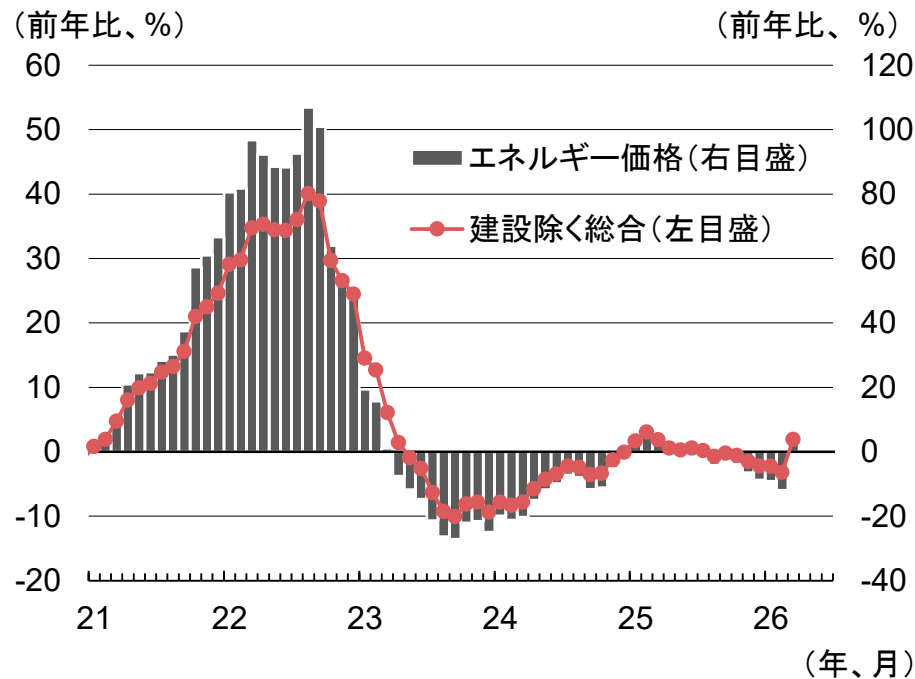
ユーロ圏の4月の消費者物価(総合ベース)は前年比+3.0%と、伸びが3カ月連続で加速した。うちエネルギー価格は同+10.9%と、イラン情勢の緊迫化に伴う急騰が鮮明である。また生産者物価(建設除く総合)は3月時点で同+2.0%と、7カ月ぶりにプラスに転じた。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

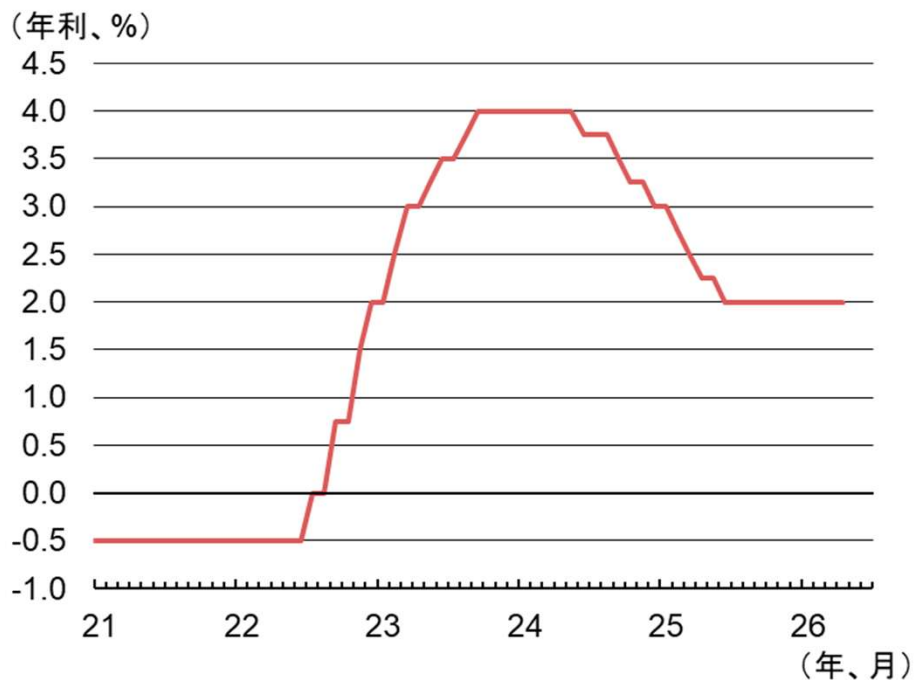


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは6月理事会で利上げを行う見通し

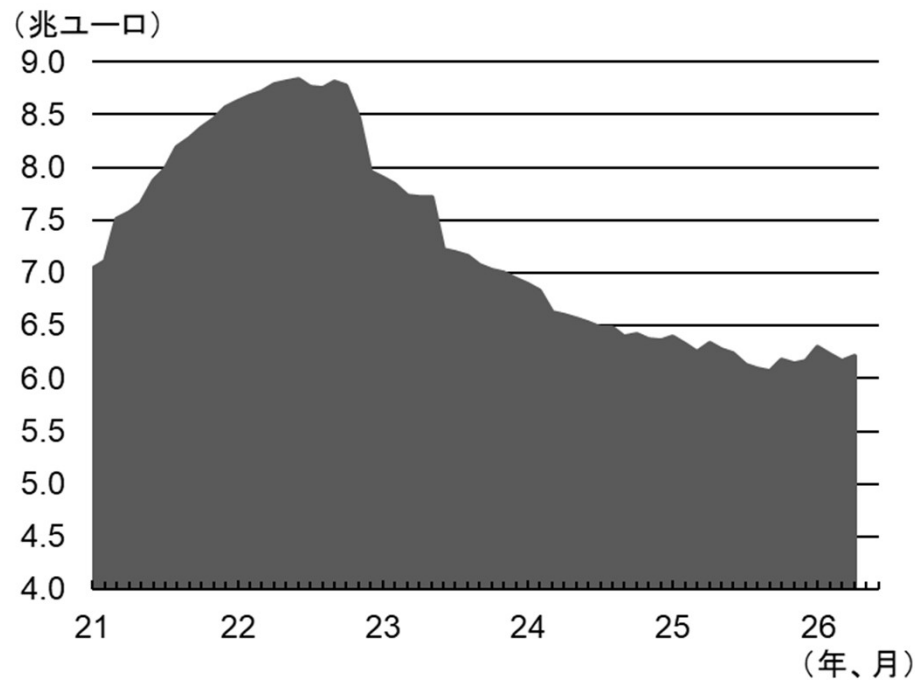
欧州中央銀行(ECB)は6月11日に政策理事会の結果を公表し、政策金利(預金ファシリティ金利)を0.25%ポイント引き上げ、年2.25%にする見通し。イラン発のエネルギーショックに伴うインフレの加速に伴う措置。金融市場ではECBが今年のうち計3回程度の利上げを行うと見込んでいる。

政策金利(預金ファシリティ金利)



(出所) ECB

ユーロシステムのバランスシート

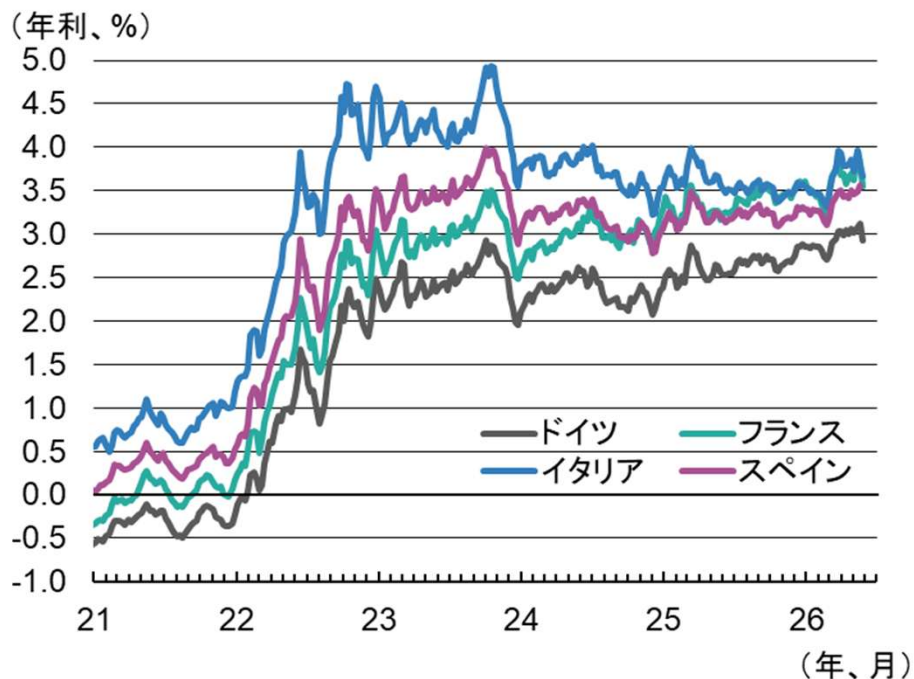


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は低下、株価は上昇

ユーロ圏主要国の5月の長期金利は低下した。イラン情勢の緊迫緩和に向けた期待が金利の低下要因となった。一方、同月の株価は上昇した。堅調な企業業績が相場を押し上げた。

10年国債流通利回り



(出所)各国中銀

株価(EURO STOXX 50)



(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで横ばい、対円で上昇

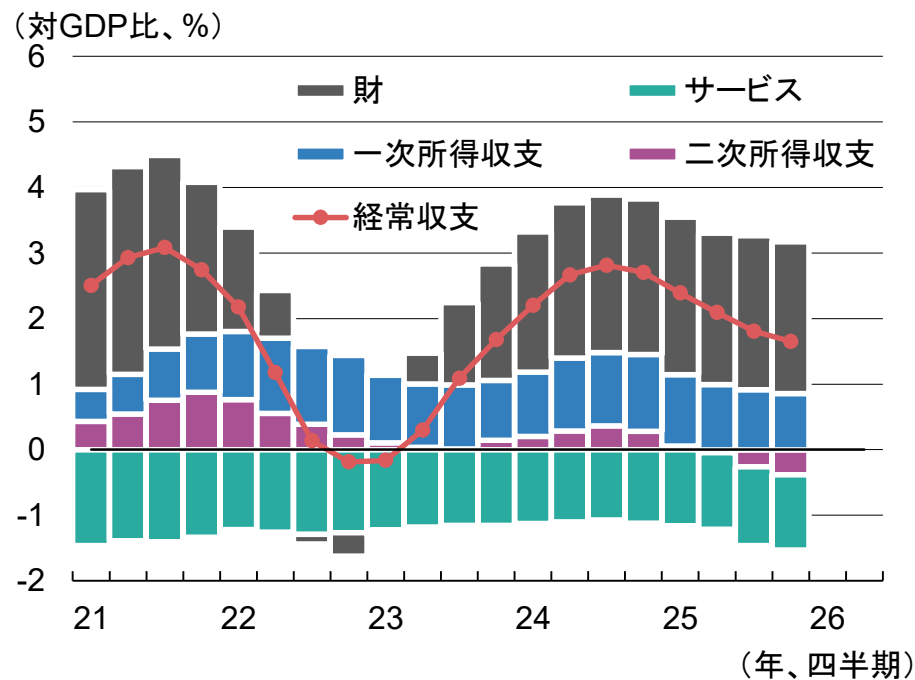
EUの通貨ユーロの5月の相場は対ドルで横ばい、対円で上昇となった。対ドルでは、有事のドル買い需要がある一方で、ECBによる利上げ観測が支えとなり、ユーロは横ばいとなった。一方、対円では、日銀の利上げ観測があるものの、ユーロ高が進んだ。経常収支は、財収支(貿易)黒字が高止まりしており、実需面からのユーロ買い圧力は安定している。

ユーロ相場



(出所)ECB

経常収支



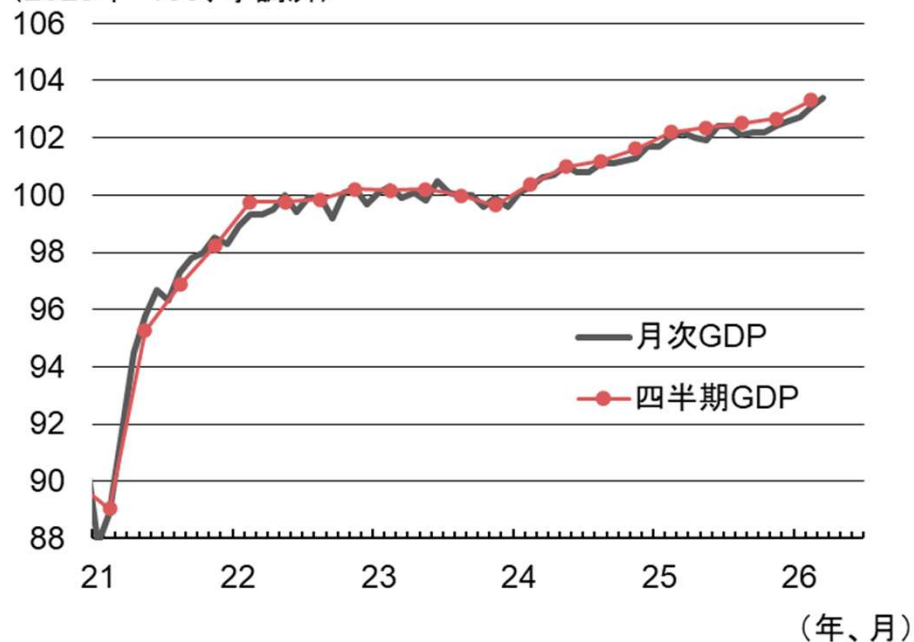
(出所)ECB、ユーロスタット

英国景気概況① 景気は加速している

英国の1-3月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.6%と、前年10-12月期(同+0.2%)から伸びが加速した。主要な需要項目別には、個人消費の増勢が加速し、総固定資本形成が反発した。一方、最新3月の月次GDPは前月比+0.3%と2月(同+0.4%)に続いて強かった。

実質GDP

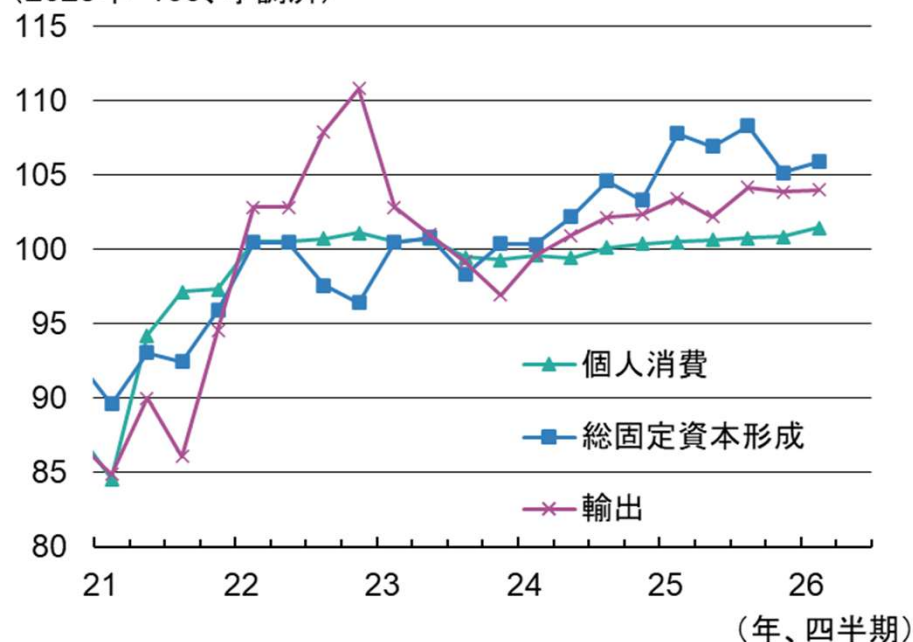
(2023年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2023年=100、季調済)

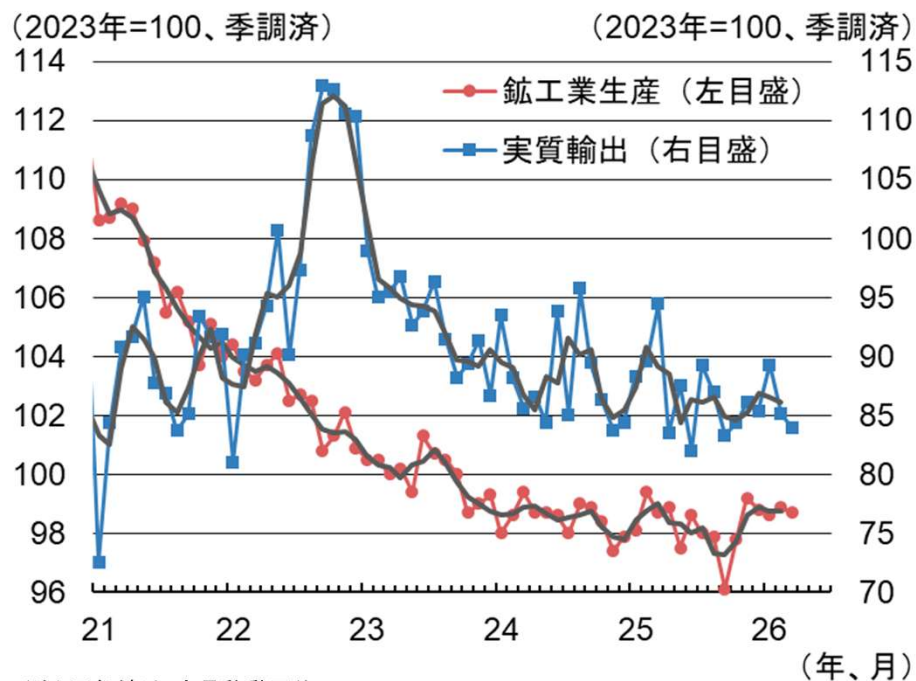


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は低迷している

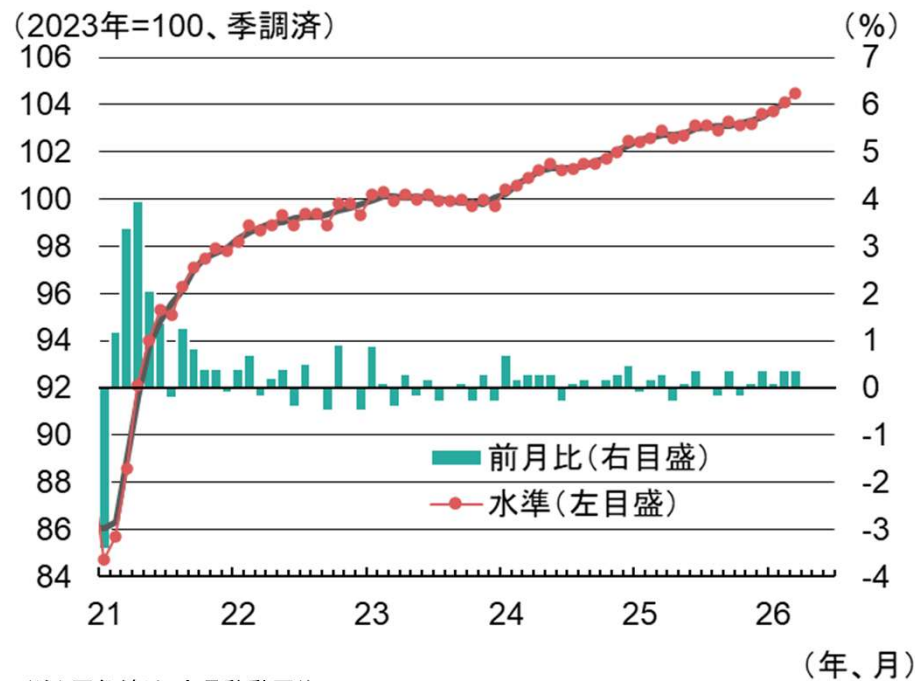
英国の3月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と減少に転じた。また同月の実質輸出も同▲1.4%と減少が続き、いずれも均した動きは低位横ばい。他方で、同月のサービス業生産は同+0.4%と前月と同じ高い伸びとなり、均した動きは上向き。

鉱工業生産と実質輸出



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

サービス業生産

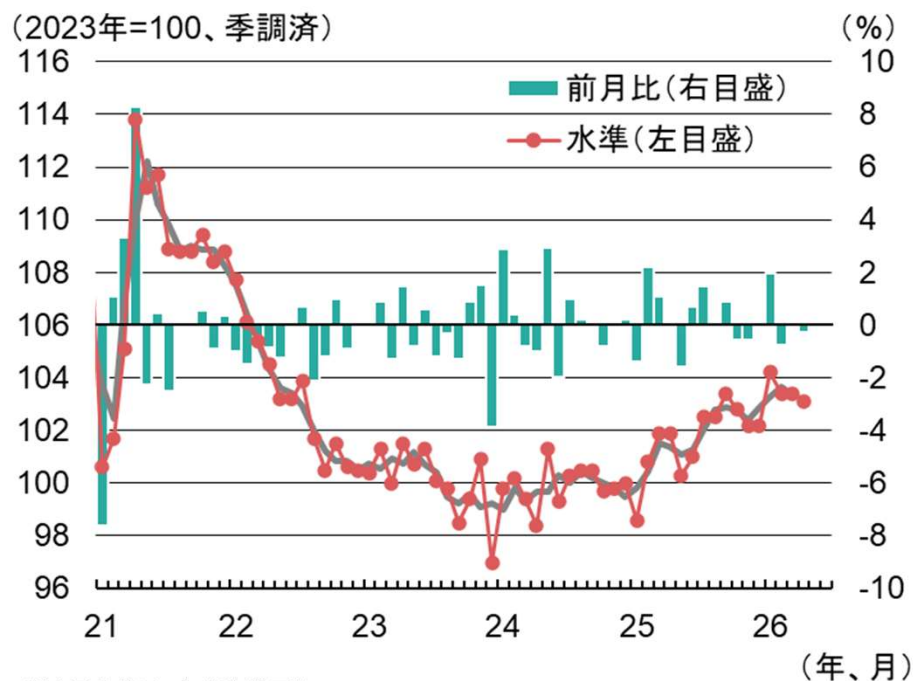


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

英国景気概況③ 消費は頭打ち

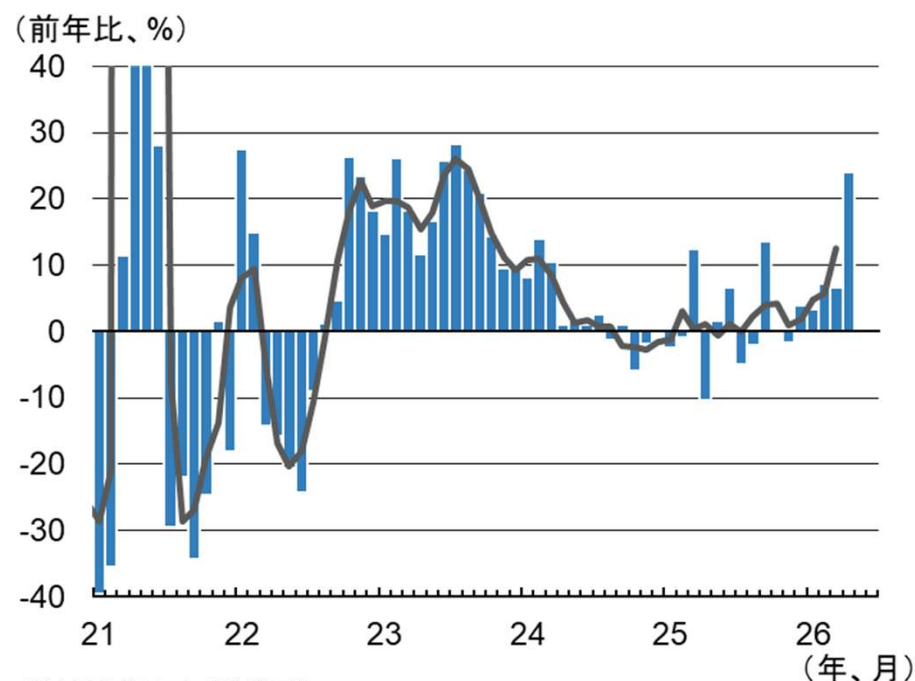
英国の4月の小売数量(除く石油)は前月比▲0.3%と再び減少し、均した動きは頭打ち。また同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+24.0%と急伸し、均した動きも加速した。前年の税制変更に伴う反動減からの回復によるもの。市場規模は年率208万台レベルと依然として軟調。

小売数量



(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) ONS

新車販売台数(乗用車)

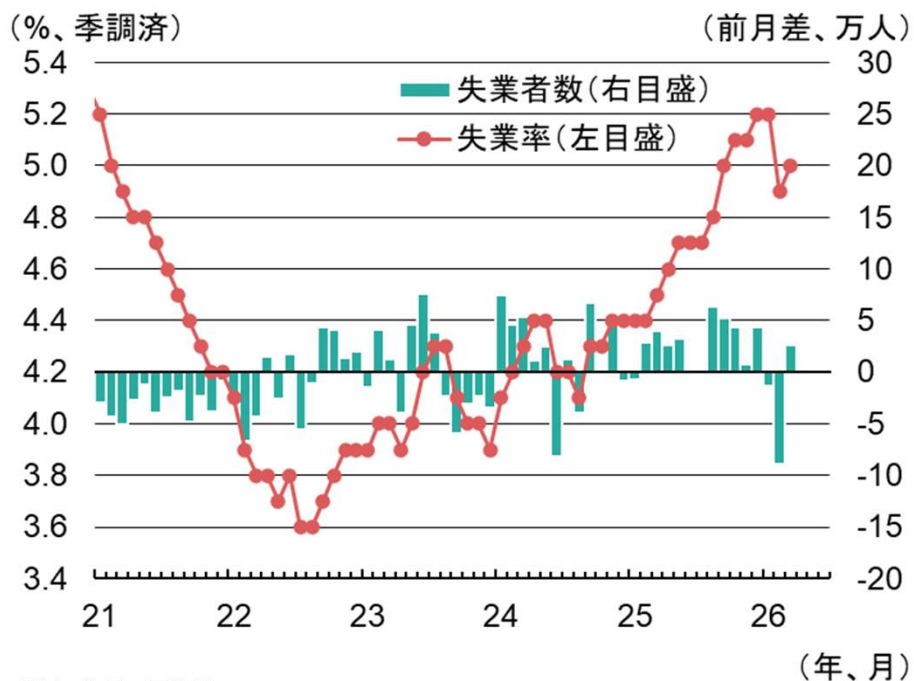


(注) 灰色線は3カ月移動平均
(出所) 英国自動車工業会(SMMT)

英国景気概況④ 雇用は悪化している

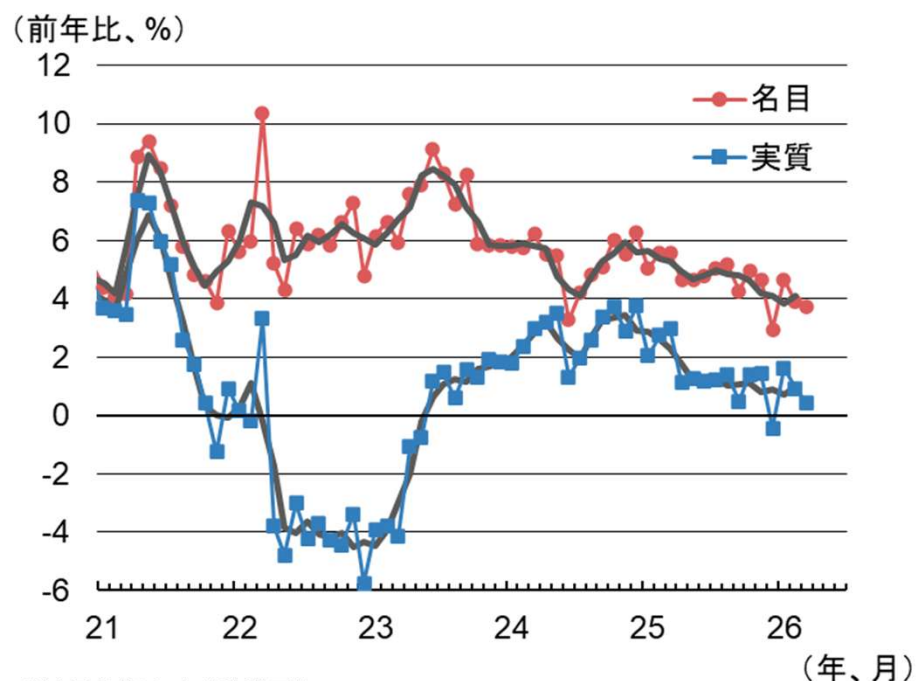
英国の3月の雇用統計では、失業率(3カ月移動平均)が5.0%と前月(4.9%)から反発した。また失業者数は前月差2.6万人増と再び増加に転じ、雇用情勢は再び悪化の度合いを強めている。一方、賃金の増勢は、物価変動の影響を除いた実質ベースでは前年比1%増程度まで鈍化した。

失業率



(注)3カ月の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

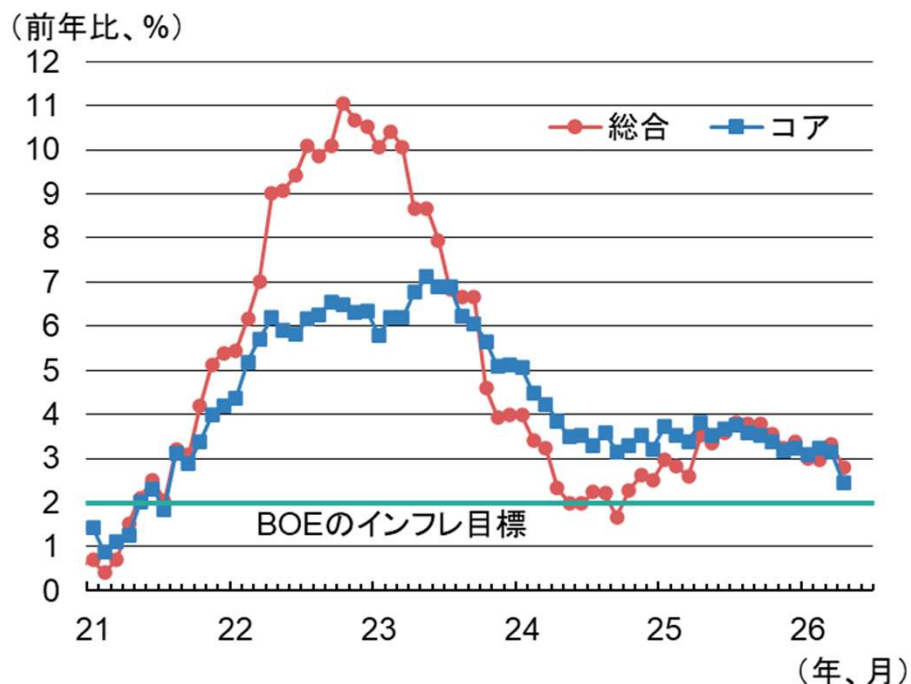


(注)灰色線は3カ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは強弱が入り乱れる

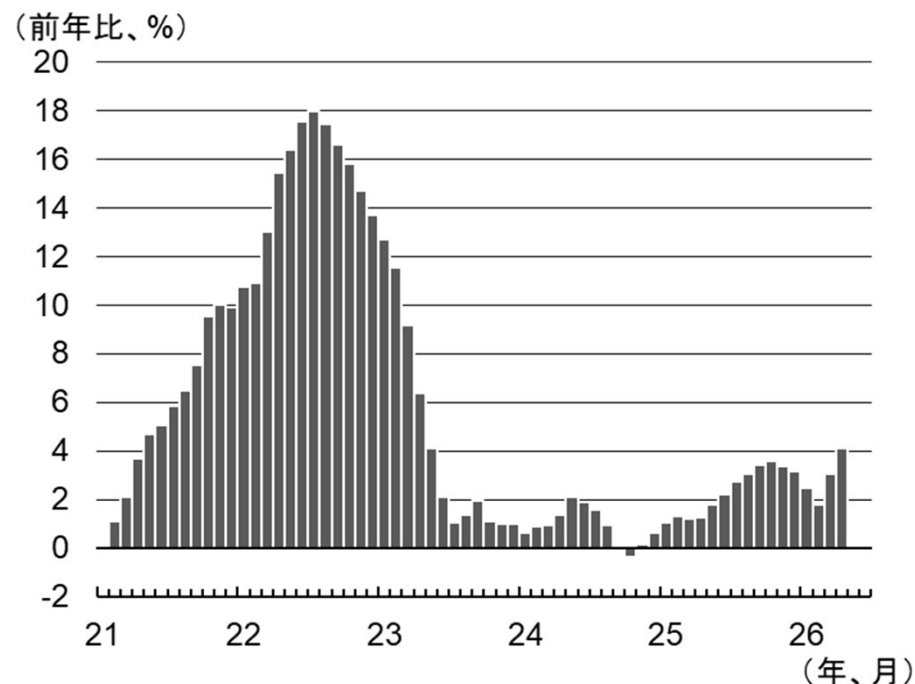
英国の4月の消費者物価は、総合ベースが前年比+2.8%、変動が激しい項目を除いたコアベースが同+2.5%と、いずれも伸びが鈍化した。一方、同月の生産者物価(産出ベース)は同+4.1%と3月(同+2.5%)から伸びが加速した。イラン情勢の緊迫化に伴う燃料価格の高騰は川上部門にまだ限定されているもよう。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(産出ベース)

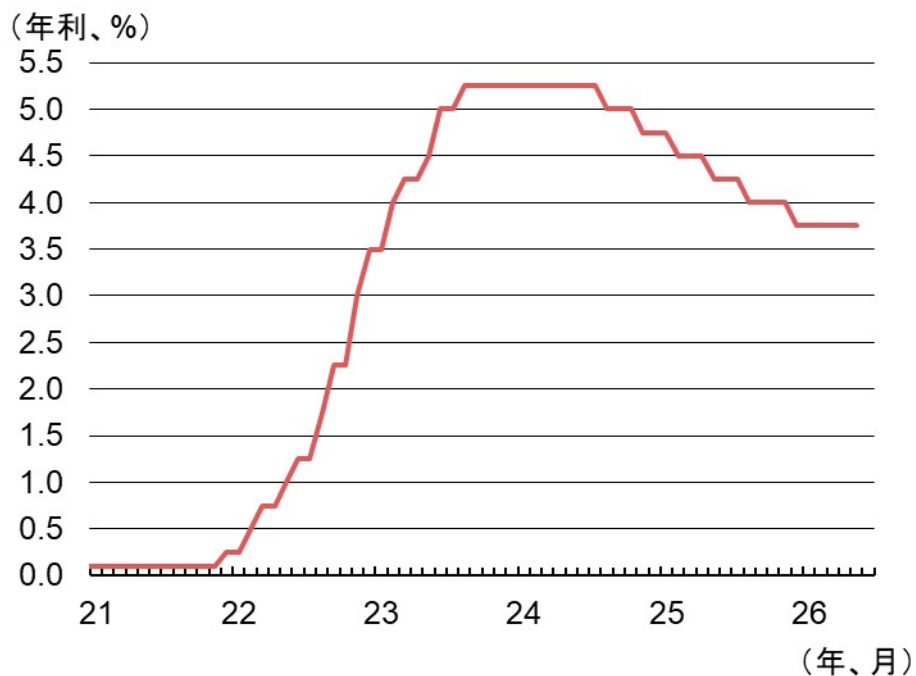


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは6月委員会で利上げを行う見通し

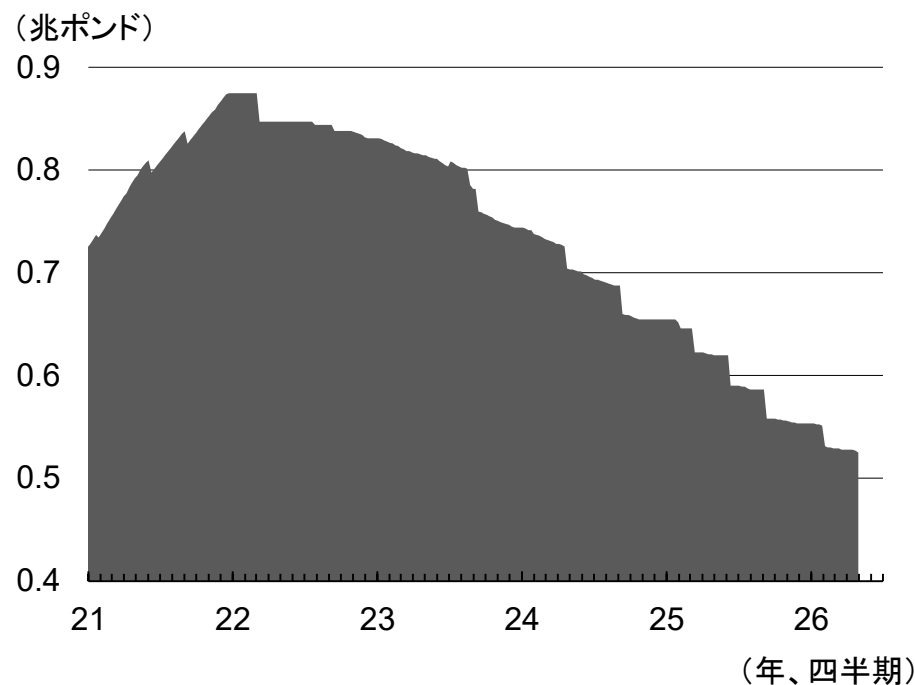
イングランド銀行(BOE)は6月18日に金融政策委員会(MPC)の結果を公表し、政策金利であるバンクレートを0.25%ポイント引き上げ、年4.00%にする見通し。イラン情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰を受けて、BOEは先行きの物価動向に神経を尖らせている。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

BOEの国債保有高

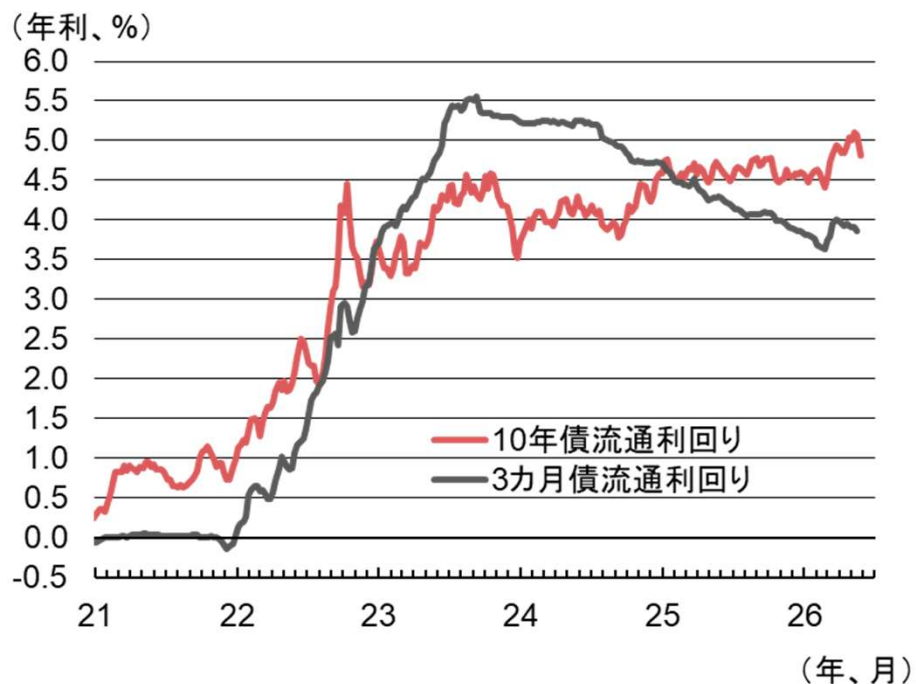


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は低下、株価は上昇

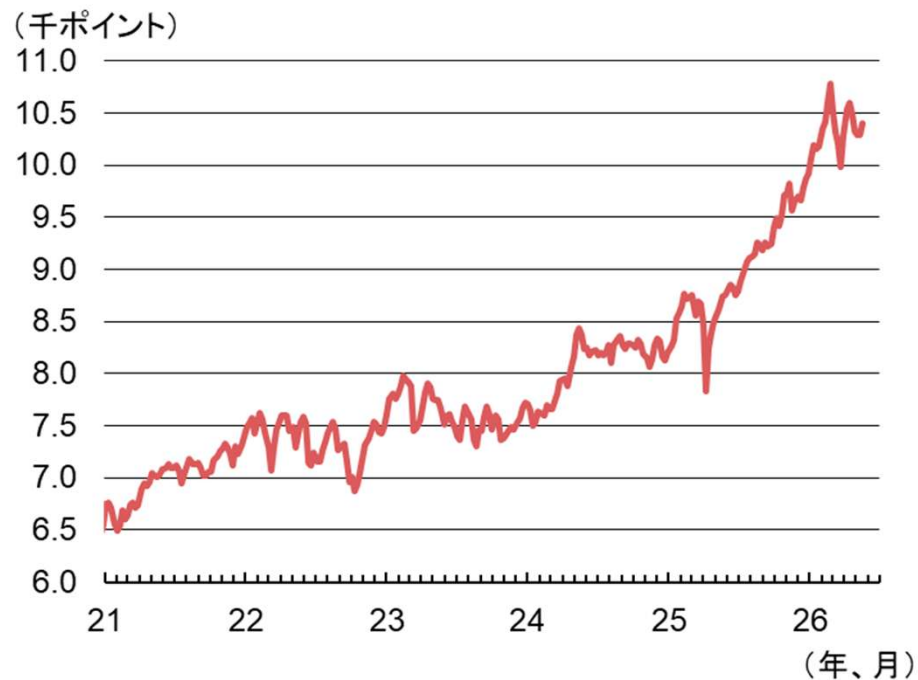
英国の5月の長期金利は低下した。イラン情勢の緊迫緩和に向けた期待が金利の低下要因となった。一方、同月の株価は上昇した。堅調な企業業績が相場を押し上げた。

長短金利(10年債と3カ月債)



(出所)BOE

株価(FT30指数)

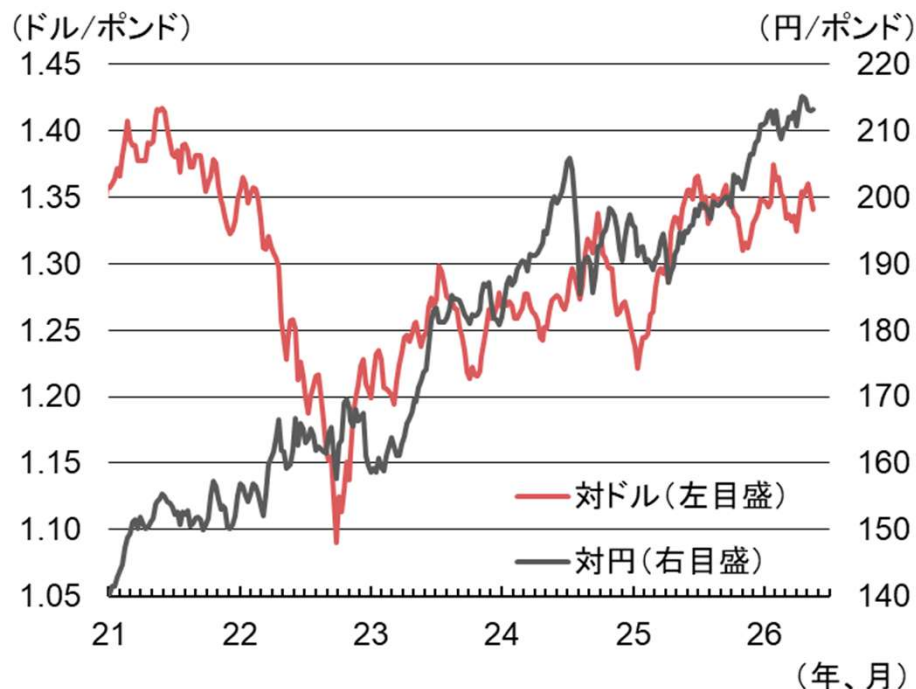


(出所)Financial Times

英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで横ばい、対円で上昇

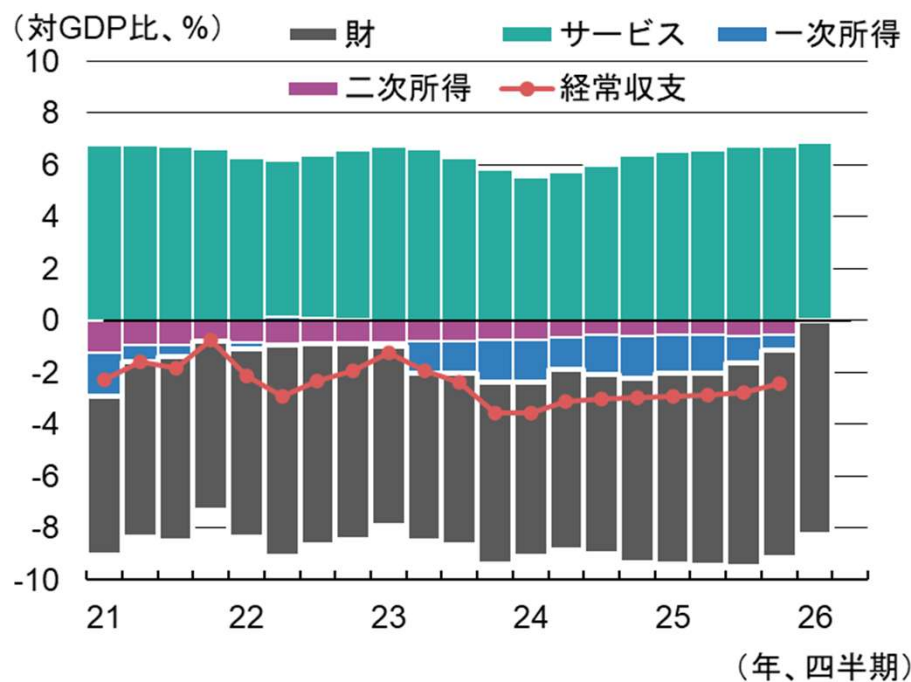
英国の通貨ポンドの5月の相場は対ドルで横ばい、対円で上昇となった。対ドルでは、有事のドル買い需要がある一方で、BOEによる利上げ観測が支えとなり、ポンドは横ばいとなった。一方、対円では、日銀の利上げ観測があるものの、ポンド高が進んだ。経常収支は、名目GDPの2%を超える赤字が定着しており、実需面からのポンド買い圧力は弱い。

ポンド相場



(出所)BOE

経常収支



(出所)BOE、ONS

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 土田陽介

TEL: 03-6733-1628 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー